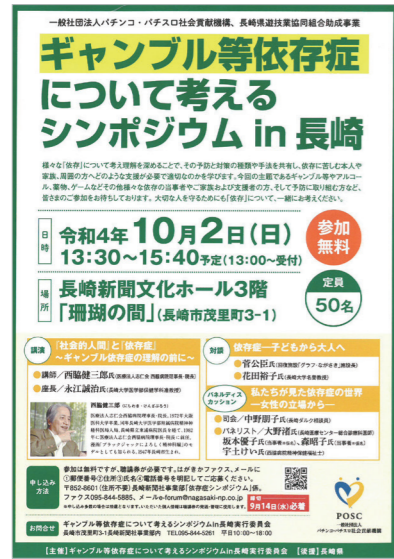


共同助成(長崎県遊技業協同組合)

「ギャンブル等依存症について考えるシンポジウム in 長崎」事業

県民の関心が高いギャンブルなどの依存症を正しく知り、治療や支援につなげる啓発活動

ギャンブル等依存症に関する偏見や差別の解消を目指し、正しい知識と理解を深め、依存症の未然防止と依存症者や家族に対する適切な治療・支援につなげるためのシンポジウム(基調講演、パネルディスカッション、対談)を長崎市で実施した。依存症に苦しむ当事者や医療関係者が登壇することで、依存症の具体的事例や回復への道筋を知る機会となった。



ギャンブル等依存症について考えるシンポジウム in 長崎の開催を告知するチラシと会場の様子

県内でも関心の高まる依存症への対策や支援の手法を共有する試み

「ギャンブル等依存症について考えるシンポジウム in 長崎実行委員会」は、依存症に関する偏見や差別の解消を目指し、正しい知識と理解を深め、依存症の未然防止と依存症の方や家族に対する適切な治療・支援につなげるための普及啓発事業を行うために設立した団体で、株式会社「長崎新聞社」と「医療法人志仁会 西脇病院」とで構成される。

長崎県によると、総合的な相談・支援などにあたっている「長崎子ども・女性・障害者支援センター」および県内の保健所10カ所に寄せられるギャンブル等依存症に関する相談件数(延べ件数)は、年々、増加傾向にある。新聞紙面でも依存症に関連した報道を行うたびに反響が大きく、身近な案件と捉えている人が増えている。長崎県では行

政や医療機関、NPO法人など様々な機関、組織によって依存症のシンポジウムやセミナーが開催されているが、同実行委員会では、依存症に対する医学的な視点からの支援策などの啓発と、新聞の採録紙面による依存症についての知識の周知・普及を図ることを目的に、シンポジウムを開催することにした。

このシンポジウムを通して、ギャンブルなどの依存症について県民とともに考えながら理解を深め、様々な依存症への対策や支援の手法を共有するとともに、依存に苦しむ当事者やその家族、周囲の方へどのような支援が必要であり、またどのような支援が適切なのかを学ぶことを目指した。参加対象者は、パチンコ・パチスロ、競馬、競輪やアルコール、薬物、オンラインゲームなど、様々な依存問題に苦しんでいる当事者やその家族、および支援者などとなった。

依存当事者や医療関係者から話を聞く貴重な機会となったシンポジウム

「ギャンブル等依存症について考えるシンポジウム in 長崎」は、2022年10月2日、長崎市の長崎新聞文化ホール・アストピアで約70名が参加して開催した。「『社会的人間』と『依存症』～ギャンブル依存症の理解の前に～」をテーマに基調講演を行った西脇病院理事長・院長の西脇健三郎氏からは、「依存とは、ヒトやモノ、様々な行為への執着が制御不能となること。依存症には、不道德だと見られたくないなどの理由で当事者が依存を認めない『否認』の問題があるが、長期化させないためには、依存状態を客観的に見つめ、当事者や家族が周囲との『ずれ』を自覚するためのきっかけが必要。依存することと、自らがよりどころを納得して『選択』することには大きな違いがある」という話があった。

精神保健福祉士、医師、長崎ダルク相談員、ギャンブル依存・アルコール依存当事者が参加して開かれたパネ

ルディスカッション「私たちが見た依存症の世界～女性の立場から～」では、アルコール依存症当事者の女性が「お酒を手放すのが怖かった。家事も育児もしなければと頑張るために飲酒していた」と振り返り、自助グループに参加して「自分と向き合うようになった」と体験談を語った。

さらにシンポジウムでは、「依存症—子どもから大人へ」をテーマに、長崎大名誉教授の花田裕子氏と、ギャンブル依存症回復施設「グラフながさき」施設長の菅公臣氏による対談も行われた。会場では一時、立ち見が出て、急ぎ座席を増やすなどの対応をとるほど県民にとって関心の高いシンポジウムとなった。また、後日、採録紙面が『長崎新聞』に掲載され、当日、シンポジウムに参加できなかった県民へも広く周知された。

長崎県遊技業協同組合より

業界の課題とも言える依存問題の理解や予防を県民と一緒に考えるいい機会と考え、助成させていただくことにしました。



長崎新聞に掲載されたフォーラムの採録紙面

助成団体:ギャンブル等依存症について考えるシンポジウム in 長崎実行委員会



県民に広く依存問題について知ってもらえる機会を持つことができました

現在、長崎県では、カジノを含む統合型リゾート施設(IR)の誘致を目指しています。そのような状況もあり、ギャンブルやアルコール、薬物、オンラインゲームなどの「依存」への関心が高まっています。今回、新聞広告で県民に広く周知し、医療従事者と当事者、支援者の3者から話を直接聞く貴重な機会になりました。

ギャンブル等依存症について考えるシンポジウム in 長崎実行委員会
長崎新聞社東京支社 営業部長 福岡 一磨さん